

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第四十三話

### 「判官館」歴史、伝説と豊かな自然

(要約文)

判官館は森林公園として活用されており、キャンプや自然散策ができる憩いの場として、町民の方のみならず、自然を愛する全道の方々に知られる存在となっています。

判官館の名称はいつ頃から呼ばれるようになったのでしょうか。最も古い記録としては、幕末の探検家松浦武四郎が残した『東蝦夷日誌』の記録に判官館の名が出てきます。そのため、江戸時代の末期にはすでに判官館と呼ばれていたことがわかっていきます。

判官館にまつわる伝説としては、源九朗判官義経がこの地にたどり着き、館を築いて付近に住むアイヌの人達と交流をしていたという言い伝えが新冠では有名です。このことが判官館という名称の由来になったといわれています。また、アイヌ民族に伝わる伝説では、人々にあらかじめ厄災を教えてくださいと黒い狐が住むお話が残されています。

その昔、判官館のふもとは「ピポク」とアイヌ民族から呼ばれていました。これは「岩の陰」という意味です。岩は判官館の岩壁を指しています。この地には、歴史において重要な出来事がありました。

静内地方のアイヌの英雄シヤクシャインの戦いにまつわるものです。これは、アイヌ民族と松前藩による大きな戦いです。この戦いは、寛文九年（一六六九）、松前藩が虚偽の和睦を持ちかけてシヤクシャイン達を襲撃し、終結することとなりました。シヤクシャインが最期を迎えた地がこの「ピポクの前浜」だったのです。

また、このような伝説や歴史が残る判官館には、貴重な草花が数多く生息しています。限られた範囲の中で多種多様な植物を観賞することができます。五月頃に咲き出すオオバナノエンレイソウ群落は壮観の一語に尽き、散策に来た人の目を和ませてくれます。その他、クマガイソウ、サクラソウ、カタクリといった貴重な植物も生息しています。近年、このような植物は全道的に数が減少しており、様々な場面で保護が叫ばれています。判官館の植生も時代とともにその様相が変わってきたと考えらるることから、昔は珍しい植物がもつとたくさん咲き乱れていたのかもしれない。



シヤクシャインが最期を迎えた地  
「ピポクの前浜」あたり

### 「春の全国交通安全運動」 ～運動の重点～

- 子供を始めとする歩行者の安全確保
- 歩行者保護や飲酒運転根絶等の安全意識の向上
- 自転車の交通ルール遵守の徹底と安全確保
- スピードダウンと全席シートベルト着用 静内警察署

#### 火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
2月	1件 (0件)	22件 (21件)
4年1～2月	2件 (0件)	54件 (45件)

#### 交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
2月	0件 (2件)	0人 (1人)	0人 (1人)
4年1～2月	1件 (2件)	0人 (1人)	2人 (1人)

### 人の うごき

(令和4年2月末現在)

人口	5,225人	(前月比 - 8人)
男	2,560人	(前月比 - 2人)
女	2,665人	(前月比 - 6人)
世帯	2,733世帯	(前月比 - 7世帯)